

いの町史編さん室だより (No.17)

あけましておめでとうございます。皆さんいかがお過ごしでしょうか？

広報7月号に、いの町史「未来へのメッセージ」の応募用紙を挟み込んでいましたが応募いただけましたでしょうか？ 締切日を1月10日(金)まで延長しています。ご家族、ご友人にお声がけいただき、ふるって応募ください。寄せられたメッセージはお名前と共に半永久的に町史に残ります。また投函箱は、本庁(1階ロビー)・枝川出張所・八田出張所・吾北総合支所・本川総合支所・すこやかセンター伊野・吾北中央公民館・本川プラチナ交流センター・天王コミュニティーセンターのほか、新たに、いの町立図書館・いの町観光協会・ぐりぐらひろばに設置しています。なお応募用紙が必要な方は社会教育課(☎893-2012)までご連絡ください。

ちよつと昔の話

「義天玄承(玄詔)をご存じですか!」

編さん委員 山岡 遵

妙心寺は臨済宗妙心寺派大本山で、山号は正法山しょうぼうざんです。花園法王はぎわらのが萩原殿と称された離宮を寺に改めたものです。建造物の主なものは桃山建築で、開山は、関山慧玄せいえんです。江戸時代は80以上の塔頭たっちゅうがありましたが現在は41です。塔頭の一つ、大通院には山内一豊・千代の墓があります。

竜安寺は、京都市右京区にある臨済宗妙心寺派の寺院で、石庭で知られています。開基(創立者)は室町幕府の管領・細川勝元、開山は「義天玄承」です。

初期妙心寺派祖師の基本的伝記である「正法山六祖伝」によると、義天は土佐の出身で、俗姓は蘇我氏しほおで、幼少期は王法師と呼ばれ、15歳の時仏門に入り、天忠寺(現在の越知町柴尾)の義山和尚のもとで教えを受け、18歳で得度し、京都に上り建仁寺に入り、古芳和尚こほう(夢窓派)に参禅を仰ぎました。後に摂津の福聚寺しよくふの春夫和尚(妙心寺関山派)について宗要を請いました。1年で春夫のもとを去り、犬山瑞泉寺にっぽうそうしゆんの日峰宗舜(妙心寺関山派)のもとで参禅の修行に励みました。修行を終えた義天は、人々に請われて瑞巖寺などを開創しました。そして師日峰が妙心寺復興のために京都にのぼり妙心寺養源院に入ったため、義天は瑞源寺に移り後を継ぎました。日峰が没した後、義天が跡を継いで養源院に入り塔主となりました。

日峰の三回忌を終えたころ、細川勝元が養源院を訪ね、義天のために寺を建て自らも参禅したいとの要望を義天が受け、宝徳2年(1450)竜安寺を開創することになりました。義天は、竜安寺開創にあたって、師日峰を開創に勧請して、自らは二世となりました。その後も、勝元の望みで丹波に竜興寺(京都府八木町)を開山しました。

享徳元年(1452)勝元の上奏によって、紫衣(紫色の僧衣で、天皇から高僧に下賜される。)を勅許されました。大徳寺、妙心寺で最初の賜紫であったといわれています。その後、一時大徳寺に入りましたが、間もなく竜安寺に戻りました。勝元に信頼され、数々の偉業を残した義天は、寛正3年(1462)70歳の天寿を全うしました。

これだけの高僧の名が土佐に残っていないのは不思議ですが、それ以上に義天がいの町波川出身だということに驚いています。地元歴史研究家たちが熱心に彼の出自について研究されています。

問い合わせ・連絡先

社会教育課 町史編さん室(内線 31)
☎ 893 - 2012 FAX 893 - 2013

いろんな情報
をお待ちして
います。

